



福祉実習生としてお世話になりました。
 一地域の中で「リーベル」が果たす役割の大きさを実感—
 共生館国際福祉医療カレッジ 福祉実習生
 (福岡県立筑後特別支援学校 教諭) 後藤 宏



障害当事者や家族を取り巻く状況は大きく変化しつつあり、私が勤務する筑後特別支援学校でも家庭や学校だけでは解決できない事例が増えてきました。今後はさらに障害児者を取り巻く福祉情勢を的確に把握し、様々な関係機関とも連携して問題解決に当たれる知識・技術・価値観等を身に付ける必要があると考え、昨年4月より久留米の共生館国際福祉医療カレッジ通信学科の社会福祉士養成講座を受講しています。今夏、23日間の社会福祉現場での相談援助実習を社会福祉法人上横山保育会の障害者支援施設「蓮の実団地」で受け入れていただいたことで、法人事業の一環である障害者相談支援事業にも関わる機会を得て、8月6日(月)から10日(金)までの週と16日(木)を加えた6日間を八女地区障害者等相談支援センター「リーベル」の福祉実習生としてお世話になりました。

これまで「リーベル」の相談員の方々には、在校生や卒業生をはじめ、家族の悩みや思いも聞いていただき、彼らを取り巻く様々な課題に対しても、私たち特別支援学校関係者と一緒で解決の道筋を考えていただきました。今回は福祉実習生として実際の相談援助場面への同席や、地域自立支援協議会研修会等への参加もさせていただき、相談事業所として組織的・機能的に活動を展開する上での留意点や工夫点、日頃から大事にされている相談員としての取り組む姿勢等についても学ぶことができました。また、「リーベル」内での業務と併せて自宅・病院・職場等への訪問による相談支援業務も体験させていただき、ライフステージに応じた相談支援内容や障害種別による対応の仕方等にも触れることができました。利用者と各相談員との日常的な信頼関係の構築とともに、職員間での課題の共有や関係者間での連携の必要性を再認識することにもつながりました。改めて地域の障害者相談支援センターとして「リーベル」が果たしている役割の大きさを実感いたしました。



お知らせ

この7月いっぱいまで精神担当相談員の萩尾浩之さんが退職されました。こちらにはわずか10カ月の配属でしたが、ゆるゆるの活動とともにリーベルでの精神障害の方々との相談にも数多く対応していただきました。

淋しい限りですが新しい道に進まれて行かれました。今後のご活躍を期待したいと思います。



ニューフェイス

身体障害者の相談を担当している陽だまりの里の人事異動によって、この度、身体障害の担当相談員が変更となります。
 新規の方はもちろんのこと、継続相談されている方にも、大きな力になってくれる相談員です。どうぞよろしくお願いたします。

大塚博嗣 相談員



ありがとうございました！

山村伸也 相談員



よろしくお願いします！

編集後記

皆さんもご存じの通り、八女地区では7月14日の北部集中豪雨による爪痕が大きく、特に山間部や河川流域においては、多くの被害を受けました。まだまだその完全復旧には時間がかかるとは思われますが、心温かい遠方からのボランティアの方々や地域住民の互いの支える力で、今まで以上に住みよい「八女」ができると信じています。

また、このリーベルも淋しい別れがある一方で、新たな風も吹いています。そうした新しい優しい風が、相談に来られる方々への一助になればいいなあと願っています。



リーベル通信

発行責任者：八女地区障害者等相談支援センター「リーベル」

住所：八女市本村425-9

電話：身体しょうがい・知的しょうがい・しょうがい児 0943-22-2610

精神しょうがい 0943-22-2630



豪雨被害を受けられた方へお見舞い申し上げます

8月8日

第1回リーベルネットワーク研修会(教育部門)

「ICF(国際生活機能分類)から学ぶ

～ワークショップ(ICFモデルの活用)を通して～

帝京大学福岡医療技術学部

堺裕准教授を招いて

一昨年からこの時期に行っていた地域の小中高の特別支援教育コーディネーターの先生達との情報交換会を今年は形を変え「リーベルネットワーク研修会」という名称で、8月8日おこなう八女にて、帝京大学福岡医療技術学部の堺准教授を講師として招いて行いました。

今回は、その研修会についてレポートをさせていただきます。

今年は、地域の小中高の特別支援教育コーディネーターの先生達だけでなく、リーベルネットワーク会議に出席していただいている事業所や近郊の自治体の委託相談支援事業所等にも参加を呼びかけ、40名を超える方々に出席いただきました。

まずは、堺准教授より45分ほど、「ICFの視点」というものを以前の国際障害分類ICIDHモデルでの障害者観との比較のなかで、図やイラスト、具体的な事例を入れながら、分かりやすく説明していただきました。



最初は、ICFという英文字のキーワードであり、入り込み辛く感じてきましたが、結局は、障害というものを、医学的な捉え方だけでなく社会的な捉え方をしていきたいと思いますとの考え方で、障害者個人だけでなく、その環境と個人的な背景も捉えてアプローチしていくものであることがわかり、この視点の重要性も分かりました。

障害者観の変化

国際障害分類 ICIDHモデル

疾病または変調→機能障害

→能力低下→社会的不利

ICFの視点

単に障害(ネガティブな側面)だけでなく、生活機能(ポジティブな側面)をみましょう。

国際障害分類 ICFモデル

健康状態

心身機能・構造 ↔ 活動 ↔ 参加

環境因子

個人因子

次へ

前々から

その後は、この研修会の中心となった教育分科会座長でもある筑後特別支援学校の秋山教諭から、講演で学んだICFの振り返りを少し行ってもらい、6つのグループに分かれたグループワークへ移っていきました。



グループワークでは、リーベルで実際に相談支援をさせてもらった事例を3つほど用意し、各グループにはそのうちの1つの事例について、よく読みこんでもらい、準備していたICFモデル図にそのケースをICFの視点で、落とし込んでいく方法で学んでいきました。



最後は、各グループ単位でその事例について作ったモデル図を説明してもらいました。



帰り際には参加いただいた方々に、感想を含めたアンケートをいただいたのですが、「参考になりました。」とか「グループワークによって違う見方にも気が良かった。」とか今後の日々の仕事に活かしてもらえそうです。

第9回八女地区障害者等自立支援協議会開催!

5月14日



今年度1回目の自立支援協議会が5月14日に八女市役所203会議室にて開催されました。まず今年度の委員さんに八女市三田村市長より委嘱書が交付されまして、その後、本議題に移っていきました。

いつものようにリーベルの活動から受けている相談状況の報告、リーベルネットワーク会議及び各分科会の報告等を行って、委員より様々な意見をいただいています。

その後、この4月から改正された障がい者制度についての説明や10月から施行される障害者虐待防止法や各自治体で作成された障害福祉計画についての理解を深めてもらいました。



今年度も、自立支援協議会会長の職を社会福祉法人上横山保育会 上田正勝理事長に担っていただくことになりました。



平成24年度 八女地区障害者等自立支援協議会委員 (変更分)

構成	団体等名称	役職名	氏名
雇用関係機関	八女公共職業安定所	所長	土肥 正
保健福祉環境事務所	南筑後保健福祉環境事務所	副所長	鎌田好一
市町村代表	八女市	市民福祉部長	末広 隆

第18回リーベルネットワーク会議開催!

今年度では1回目になりますリーベルネットワーク会議が、5月21日八女市役所205会議室にて開催されました。

2時間半に及ぶ会議では、通常のリーベルの活動及び相談状況の報告。そして各分科会の活動状況報告。それらについての質疑応答や意見交換を行いました。



そして出席者の皆さんには、この4月から改正された障がい者制度について、特に打ちだされている相談支援体制の充実と強化についてとサービス支給プロセスの見直しについての説明、また10月から施行される障害者虐待防止法や各自治体で作成された障害福祉計画についても説明し理解を深めてもらいました。

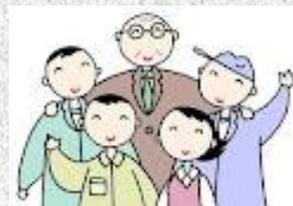
就労

5月16日に第6回専門部会を開きました。

一般就労部会では、この春に集計した企業向け障害者雇用の実情アンケートの記載された意見をもとにして意見交換をしています。企業からのシビアな意見から障害者雇用に積極的な意見まで大変参考になったようです。

福祉的就労部会では、まずは八女市内にできた観光物産館を見学に行き、その中の販売ブースで福祉事業所の取り扱い商品販売できないだろうかと検討をしています。

その後、会場を八女作業所に移し、以前見学したA型事業所「れんこん」についての感想や意見を交換しました。また、前回話があったまごころ製品についての対応状況等を確認しています。



生活

「社会資源シート」を利用した事業所紹介も、第15回で無事終了しました。6回にわたり、17事業所の報告を受けました。同じ八女地区に住みながら、なかなか他の事業所や行政等の中身が分からない状況でしたが、少しは内容を把握出来たのではと自負しています。

事業所からは課題とともに、今後グループホームの建設も検討するという話も伺え、期待を持っています。

事業所の報告が終了したところで、この分科会も一区切り。参加者へアンケートを取り、今までの振り返りと今後の取り組みについて意見を集めました。今回はアンケート結果を基に、今後について参加者と共に検討するところです。



教育

今年度も教育分科会では、学校の先生方の異動等もあり、委員の交代がありました。

今年度初回の分科会は6月11日に開催。今回は、広川町立下広川小学校の堤健治教頭先生より実践報告をしていただきました。演題は「進めよう! 特別支援教育~特別支援教育の視点からの学校改革~」堤教頭先生の子ども一人一人を大切に、よいところを褒める教育実践。クラスの子ども達と一緒に考えながら取り組む学級づくり。ケース会議を校内研修に取り入れることで、学校全体の先生方に理解と協力を呼びかけ、先生方と取り組む学校づくりの報告でした。

教育現場の話を、行政、福祉関係の委員さんにも聞いていただき、生涯に亘る支援の在り方を考える機会となればと思います。

